

保存療法ベースに手術も

病院の実力 ～神奈川編 145

股関節の病気

骨の先端の丸い大腿骨頭を包み込む構造になっている。胴体と両足をつなぎ、体重を支えると同時に、足を前後左右、外側内側に回すなど多様な動きを行う。片足立ちの場合、体重の3〜4倍の負荷がかかる。

の軽減を図る。進行期・末期には、保存療法を続けながら、人工関節置換術などの手術も視野に入れる。

節を取り除き、人工関節を入れる。多くの場合、日常生活や軽いスポーツもできるようにする。正確な位置に入れるためのコンピューター支援手術「ナビゲーションシステム」を導入する施設も増えている。

早期に見つければ治療の選択肢も広がる。痛みを我慢せずに専門医を受診することが大切だ。

運動、ストレッチでも改善



川崎市立川崎病院

山口健治

整形外科担当部長

今月は「股関節の病気」を取り上げる。日本股関節学会や日本人工関節学会の研修施設などに2019年の診療実績を調査した。

股関節は、骨盤の外側にあるくぼみ(寛骨臼)で、大腿骨の先端の丸い大腿骨頭を包み込む構造になっている。胴体と両足をつなぎ、体重を支えると同時に、足を前後左右、外側内側に回すなど多様な動きを行う。片足立ちの場合、体重の3〜4倍の負荷がかかる。

股関節の痛みが出る病気で最も多いのは「変形性股関節症」だ。関節の軟骨がすり減り、炎症が生じる。発症年齢は40〜50歳代が多い。日本人の場合、原因の8割以上は、寛骨臼の形成不全などによるものだ。

前股関節症、初期、進行期、末期と4段階で進行していく。初期は、理学療法士の指導の下、運動療法などの保存療法で痛みを軽減する。痛みが主な症状だが、進行すると、寝返りをうつなどただで痛みを感じるようになる。痛みからと動かさずにいれば、関節で発症することが多く、重い物を持つ人などは要注意だ。形成不全があれば、10歳代でも症状が出ることもある。高齢化社会に伴い、明らかな原因がない人も増えている。

病院の実力「股関節の病気」 医療機関別2019年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	人工関節置換術 (件)	ナビシステム(使用)〇、 導入予定△、予定なし×	保存療法のみ患者数(人)	理学療法士 (常勤・人)
				20年3月現在
湘南鎌倉人工関節七	641	×	243	3
座間総合	316	×	120※	79
北里大	225	○	2297	21
昭和大藤が丘	209	×	1240	10
済生会横浜市東部	198	×	35	45
昭和大横浜市北部	170	×	100	—
神奈川リハ	161	○	2688	60
横浜市大病院	160	○	—	14
済生会横浜市南部	81	×	100	14
横浜労災	77	△	—	17
聖マリアンナ医大横浜市西部	73	△	—	22
帝京大溝口	72	○	235	14
伊勢原協同	71	×	—	28
市立川崎	68	△	—	17
太田総合	63	—	—	—
東海大	55	×	308	25
東芝林間	50	×	800	19
新百合ヶ丘総合	39	○	—	45
戸塚共立第2	34	×	355	17
横須賀共済	29	△	411	28
東名厚木	28	×	37	16
横浜掖済会	22	○	50	4
厚木市立	18	×	225	7
横浜市立みなと赤十字	16	×	86	19
東戸塚記念	14	△	23	32
磯子中央	10	×	109	19
大和市立	10	×	244	8
横浜新都市脳神経外科	8	×	194	57
川崎市立多摩	0	×	0	12

「セ」はセンター、「リハ」はリハビリテーション、「—」は無回答または不明。
※概数

全国の調査結果は17日の「安心の設計面」に掲載しました。

軟骨が残っていない場合は金属製の人工股関節に置き換える。この手術も技術の進歩で、体の負担を抑え、周囲の筋肉も温存しながら行えるようになっている。

股関節に痛みを感じたら、簡単な検査である程度の原因が分かるので、まずは整形外科を受診してほしい。